

(39) 勝手神社 (かつてじんじゃ)

鎮座地：三重県伊賀市山畑482

TEL：0595-45-9116

参拝日：2014年1月15日

主祭神：正哉吾勝勝速日天忍穗耳命

祭神：大山津見命、木之花佐久夜比賣命、天兒屋根命、國狹槌命、國常立命、
豊斟淳命、健速須佐之男命、火能迦具土命、大物主命、宇迦能御魂命



石柱と鳥居



鳥居と拝殿



池と五重塔

「村社勝手神社」の石柱を右手に見ながら境内を眺めると、三つの鳥居とそれらの手前にそれぞれ石灯笼が二つずつ配置されている。手前と奥の鳥居は石であるが真ん中は銅製である。境内の右手から手前にかけて池が続いており、石橋を渡って境内に入るようになっている。池には石造りの五重の塔が置かれ、境内に入ると左手に社務所、右手に屋根のない手水舎があり、阿吽の狛犬に守られて拝殿が見える。本殿は外削の千木と5本の鯉木がのった流造で、鎮守の森に包まれている。本社は田畑と民家に囲まれた平地に座しており、鎮守の森の規模は大きくはない。樹種としてはリンボクやタブノキなどの大木の他にミカン、サクラ、サカキ、ナンテン、シロダモ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、タブノキ、カクレミノ、シュロ、シラカシ、イヌマキなどは見られる。

10月10日の例祭に行われる神事踊りは、悪霊退散・雨乞い・豊作などの祈りを捧げる祭で、鞆鼓(かっこ)踊りとして有名である。本踊りは寛政2年(1790)より継承されており、県無形文化財、国民族芸能選択の指定を受けている。

祭祀は例祭10月10日で、その他年中恒例祭儀は20回行われている。

宝物等：棟札一枚(天文23年<1554>)、鏡一面(正徳元年<1711>)銘

由緒(三重県神社誌)

勧請年月日不詳ではあるが、大和国吉野の水分神社の分神であるとも伝えられている。明治37年から明治41年にかけて山神社など15社を合祀した。



本 殿



手水舎

境内看板

三重県無形文化財指定国、民俗芸能選択指定

神事踊り由来

神事踊りの起源が明らかでないが寛政二年光格天皇の代に、徳川吉宗公の善政老中であって松平定信の補弼が国家安穩国民奉平を祈るために、敬神思想向上として、村民を励ますために盛んに催したとされている。

悪疫流行、雨乞、豊作等の祈りを捧げ、これが神霊化し農民奉養のための舞となったので、本来は五穀豊穡、村内安穩を祈る農村共通の風流系

「カッコ」踊りの一つであろう。

踊りの種類は二十種類で楽長を中心にして楽太鼓打ち、中踊り、歌出し（立ち歌い、地歌い）、鬼、笛、籠馬、猿、（籠馬、猿は神社年番）総数二十名で構成され、毎年十月十日秋の大祭に境内において奉納し古代民俗芸能の内随一と目され昭和三十八年に三重県無形文化財指定、昭和四十五年日本万国博覧会の世界の花まつりに出演、翌四十六年国の民俗芸能選択指定を受ける。NHKのふるさとの歌まつりや全国民俗芸能大会、映画、テレビ等出演し格調高い風流踊りと目されている。

伊賀町 伊賀町観光協会 勝手神社神事踊り保存会